

## 1 学校の概要

本校は、周南市の東部に位置する児童数500人余りの中規模校である。各学年3学級(2年生は2学級)と特別支援教室が3つ、さらにことばの教室(幼児・小学生)が設置されている。

学校教育目標に校名から「か・・・感謝する子」「つ・・・強い子」「ま・・・学び合う子」を掲げ、具体的な目標を設定して日々の教育活動に取り組んでいる。本事業を受けた当時、本校の教育活動は保護者の70%以上に肯定的に受け取られていた。例えば「校長は、教育方針を分かり易く伝えている」の項目で肯定的評価が84%、否定的評価が16%という結果であった。

地域との連携という面では、生活科、社会科、総合などの学習面で、また、運動会やふれあい祭り等の行事面で、指導を受けたり、土地を借りたり、プログラムに組み入れたりするなどの関係がある。さらに、地域の方による朝のあいさつ運動や安心パトロールの活動等、様々な面で学校は支えられている。

## 2 児童生徒の実態と事業の必要性

本校では過去4年間、何件か保健室登校になったり登校を渋ったりしたケースが報告されており、不登校とされる児童も1名存在した。また周南市教育委員会に報告した「いじめ」の件数は、4年間で8件である。他に、軽微な人間関係上のトラブルは多く存在したが、その都度、その詳細を報告・検討し合い、改善に資するよう努力してきた。

全体的に見ると、本校の児童は、休憩時間など、多くの仲間と外で元気よく遊ぶことができる。時には、クラスの全員が一つの遊びに参加して楽しむこともあり、人間関係づくりの面から見ても、望ましい関係は多くとらえることができていた。

反面、全校集会などで楽しさを共有できない、授業などで友達の意見をつなげて内容を深められない、校則など公共のマナーが守られない等の問題点もあった。

本事業は、不登校の解決に資する人間関係づくりのための実践とプログラづくりが課題である。本事業を引き受けた時点では不登校は存在しなかったとはいえ、不安定な人間関係のもとで登校することに抵抗を感じている児童は少なからず存在した。本事業に取り組むことで、児童にとっての学校が、より多くの友達と広く深くつながっている場所となり、より楽しい学び舎に近づくことができるのではないかと考えた。

## 3 取組の紹介

### 【1年次】

#### (1) 研修主題の設定と方法

本事業に取り組むにあたり、研修主題を「子どもたちが互いに聴き合い分かり合える学校をつくる」とした。より望ましい関係を子どもたち自身がつくっていくことができるようにすること、学習としての聴くこと、生活規律としての聴くことを重視すること、お互いの人格の分かり合い、学習内容の共感・共有としての分かり合いを重視することを表現したものである。

研究は、A F P Yなどの技法研究、人間関係づくり・集団づくりのノウハウを得るための理論研究、豊かなかかわりのある生活指導や学習指導の実現を目指す実践研究を内容とした。

## (2) 取組の実際

### ① 技法研究

エンカウンター、ソーシャルスキルトレーニング、体ほぐし、アイスブレイキング、カウンセリングテクニック、A F P Yなどの人間関係づくりの様々な手だての研究を行った。年度前半は部にわかれて、各々がその理論と方法を学び、年度後半にはそれらを教員相手に実践したり説明したりした。

A F P Yについては、11月と1月に教育研修所の藤村研究指導主事を講師に招き、実習を行った。様々なアクティビティを実習していく中で、条件と課題の提示、目標設定が明確なこと、自由意志に基づく挑戦を尊重すること、メタファーを尊重すること、等指導にあたって配慮すべき事項を理解することができた。

### ② 理論研究

理論面では、Q-U（学級診断尺度）を利用した学級経営について研究を試みた。学級の実態をQ-Uを利用して把握し、そこから目標に至るための具体的な手だてを講ずるという流れは、本事業の目的である提案プログラム作成の基本的な考え方と合致するものであった。具体的にはQ-Uを10月と2月に実施し、学級集団全体の傾向をつかんだり、クラスの中で友達とうまく関係をつくることができている個々の児童を把握したりした。そして、その実態をふまえた学級経営の具体的な手だてとその結果を報告・検証し合った。

### ③ 実践研究

#### ・ 1年体育科「とびっこあそび」

基本の遊び方を提示し、その遊び方を工夫していくという学習であった。グループで遊び場に移動したり、チャレンジしたりするという一方で、子どもたち同士のかかわり合いが起きるような仕組みが工夫されていた。

「ゴム跳び」の場では、お互いが跳べる高さを調整し合ったり、跳べた友達とほめ合ったりする姿が見られた。「川跳び」の場では川を跳ぶための置き石の場所を自由にしたことから、グループで相談する姿を見ることができた。従来であれば、ゴム跳びの場はポールにゴムをくくりつけて跳ぶ。川跳びも置き石の位置を固定してしまう。場を子どもたちが工夫できるようにした仕組みの中で、子どもたちの聴き合う関係は築かれていくことが分かった。

#### ・ 3年道徳「友だちとなかよくなりたいな」

読み物資料による学習とエクササイズを組み合わせた授業であった。友達の気持ちを分かり合い、友達のよさを知ろうとすることにねらいがあった。

この授業は、Q-Uの結果をふまえて、担任の具体的な学級経営の手だてと共に提供されたものである。クラスの課題に対してクラス全体に対する働きかけと個人に対する配慮の方針を明確にもって授業に臨んだ。

授業の後には、「班のことがよくわかった」「友達の知らないことがよくわかった」などの言葉がいくつも表出され、活動自体が望ましい方向ではたらいっていることがわかった。授業自体の課題としては、考える活動からエクササイズへのつなぎ、子ども同士の発言のつなぎ、生かすべき児童と他の児童とのつなぎの具体的な手だてが必要であることがわかった。

### (3) 1年次の成果と課題

1年次の成果としては、三つの点が挙げられる。一つは、各手法について一定の理解が得られたことである。AFPY等の基本的な考え方、行い方を実習し、児童に実践することができた。二つ目は、いくつかの授業や生活指導の中に、人間関係づくりに配慮した仕組みを入れ込めたことである。それは学びにとって本質的なことであり、よりよい授業づくりと軌を一にしている。三つ目は、学級診断尺度Q-Uを利用してクラスの実態と目標とする姿、そのための手だてとその診断的な評価の繰り返しが大切であることが理解できたことである。

課題としては、以下の5つの点が挙げられた。①1年次の成果を受けての人間関係づくりの計画カリキュラムを作成すること、②Q-Uの結果を利用して、よりの確な診断と手だてを講ずることができるようになること、③日常の生活指導や学習指導の中に人間関係づくりに配慮した考え方や方法を取り入れられるようになること、④個々の手法を実施する技能を高めること、⑤特別活動などで異年齢での人間関係をつくっていくことである。

## 【2年次】

### (1) 取組の実際

1年次の成果と課題をふまえて、2年次は、各専門部会（授業研究グループ、学級集団グループ、異年齢集団グループ）に分かれて、さらに人間関係づくりについての実践、計画カリキュラムの作成を進めていった。また、2学級でQ-Uを取り入れた学級づくりに取り組んだ。以下、各専門部会の取組を紹介する。

#### ① 授業研究グループ

授業で人間関係づくりのスキルを身につけるために、「聴く・話すことの指導」「2人（少人数）での学習の工夫」「グループ活動・グループ学習の充実」の3点に重点をおいて研修を行った。具体的な取組としては、

- ・発表の約束・発表の仕方（話型）の作成
- ・年間のカリキュラム作成
- ・学習規律や活発な発表をするための手だてについての情報交換
- ・2人（少人数）での学習実践
- ・実践提案による研修

等である。

#### ② 学級集団グループ

よりよい学級集団をつくるために、学活、その他（朝の会、帰りの会、休み時間など）の時間において人間関係づくりに関する活動を研究・実践してきた。

具体的な取組としては、各学年・各学級の学級集団づくりのための活動を計画・実践

し、その取組を記録として残すということであった。そして、その指導事例を各学年のファイルに累積し、本年度の各学年の実践を共有の財産とすることにした。

年間計画における各学期のねらいは、1学期は学級開きの時期なので、担任と子ども、子ども同士がお互いに知り合いよい雰囲気をつくること。2学期はお互いのことをさらによく分かり合うためや高め合うための活動を通してよりよい学級集団となること。3学期は今まで積み重ねてきた人間関係をさらに深めたり、高めたりする活動を通して学級集団を完成させることとした。

③ 異年齢集団グループ・・・【異年齢集団でのかかわりづくり】参照

(2) 2年次の成果と課題

① 授業研究グループ

「聴く・話すことの指導」についての成果としては、四つの点が挙げられる。一つ目は、ノートに書いてから発表することで、発表が活発になったことである。二つ目は、音読集を活用することが効果的であったことである。三つ目は、発表の仕方（型）を掲示したことで最後まではっきり話すようになったことである。四つ目は、帰りの会などで気持ちを入れて話す練習をし、授業に生かしてきたということである。

「2人（少人数）での学習の工夫」「グループ活動・グループ学習の充実」についての成果としては、二つの点が挙げられる。一つ目は、2学期になると互いに安心してつきあえる雰囲気になりグループ活動がスムーズに行えるようになったことである。二つ目は、日々の積み重ねによりグループ学習で時間内に課題をこなせるようになったことである。

課題としては、以下の五点が挙げられた。①指導案の形式を考える。②全教師が「人間関係づくりは授業から」という意識をもって授業に臨む。③手だてをしぼって研究をする。④学期ごとに各クラスごとの成果をまとめる。⑤教師のノウハウをまとめた「ネタ集」を作成する。

② 学級集団グループ

研究・実践の成果としては、次の三点が挙げられる。一つ目は、各学期のねらいに即して年間計画を立てたことで、見通しをもって学級活動が仕組めたことである。二つ目は、実践した活動の効果や感想を添えたことで、その活動自体の価値や効果を確認できたことである。三つ目は、各学年の実践事例を記録に残したことで、次年度へのつながりがもてたことである。

また、課題としては、次の二点が挙げられる。一つ目は、今年度の実践は学年間で話し合った年間計画ではなかったため、来年度は各学年で活動を吟味して年間計画を立てることである。二つ目は、学年が違っても同じねらいや同じような内容で活動できそうな事例もあったため、今後は、学年間だけでなく、縦のつながりもふまえた年間計画にしていく必要があるということである。

③ 異年齢集団グループ・・・【異年齢集団でのかかわりづくり】参照

【3年次】

(1) 提案プログラムの作成に向けて

3年次の研究は、端的に言えば、提案プログラムの作成を目的とした。2年次まで、授業や手法など個々に研究してきたものを、一つの統一されたプログラムの中に位置づけ、実践につなげようとするものである。そのために

- ① 6月ぐらいまでに各学級担任と特別活動部で提案プログラムの第1次案を作成した。
  - ・ 聴き合い分かり合うことを視点に児童の関係をどのようにつくっていくか、学級経営の柱を設定した。
  - ・ 各教科の授業場面、特別活動等で人間関係をどのように高めていくかの見通しをもつようにした。
  - ・ 仮定した見通しと関連させて、各教科や特別活動の、いつ、どのような場面で、どのような方法で人間関係をつくっていくことができるようにするかを明記した。
- ② 提案プログラムは、各担任が日々の実践の中で修正を繰り返し、より子どもの実態に即したものに改善していくこととした。そのために授業研究を行い、子どもを見る目、子どもの言動の意味、人間関係の具体的な姿をとらえ直していった。その際、講師として長谷川指導主事（下松市教委）、手島先生（防府市立中関小教頭）を招聘し、自分たちにはない視点から授業や子どもたちを見ていくことを学んだ。
- ③ 1月に、各担任が提案プログラムの第2案を作成した。
  - ・ 第1案を、より児童の実態にあうように修正したり、具体的な方法がより伝わりやすい表現に改めたりした。
  - ・ 提案プログラムは各担任の得意な分野を生かした個性的なものとしてとらえることとした。
  - ・ 提案プログラム作成を支えた集団の育ちや人間関係の高まりのとらえ方等の考え方を解説として付け加えた。

## (2) 実践例

- ・ 5年理科「てんびんとてこ」

「重さ当てゲーム」という仕組みによって、グループの一人ひとりが実験にかかわり、また自分の考えを表出できることをねらった授業であった。ミニ先生役が質問し、他の子が予想し、実験を繰り返す中で、豊かにかかわっている姿を見て取れた。試行錯誤の時間が保障されていること、実験のルール・発言のルールが子どもたちに理解されていること、課題が明確で、その解決の仕方が理解されていること等がそれを支えていた。また、四つしか質問できないなどの特別な発言ルールもグループ内の会話を活性化させた。

子どもたちは活動に楽しく取り組み、グループの人間関係も外に開かれた温かいものだったが、共有したい学習内容の押さえ方、生かしたい子どもの取り上げ方に課題が残った。ルールを超えた言動への対処、ふり返り活動を継続すること、子どもたちの求める情報を求める時に提示すること等が指摘された。



- ・ 4年音楽「曲の気分を感じ取ろう」

「剣の舞」を体育館で、さらに鑑賞DVDをスクリーンに映し出して鑑賞するというダイナミックな授業であった。観賞後の感想の伝え合いは活性化したが、それを支えたのは、順番に話す、話す人の方を向いて話す、頷いて聞くなどの約束事が子どもたちに理解されていたからである。また、曲のイメージを「色」で表すという発問の工夫によって、すべての子どもが思いを表出し、その交流が行われやすくなった。子どもたちのもつ色のイメージが大人が考えている以上に、豊かで変化に富んでいることがわかった。また、ふり返り活動時にカラー付箋を使い、感想が似ているもの同士でまとめたことで「クラスみんな」の感想を一人ひとりが知ることができた。



共通に身につけさせたい鑑賞の行い方、色を通した表現の是非、イメージや気分など曖昧に表現されるものに対してしっかりと構えをもつことが大切とされた。

### 【異年齢集団でのかかわりづくり】

「聴き合い分かり合う」人間関係づくりに取り組んでいく時、日々の授業がその中心となる場になるということは、共通理解されていた。しかし、同時に異年齢集団でのかかわりも避けては通れないことが、1年次の研究の途中から指摘されていた。そこで、研究の中に異年齢集団でのかかわりを豊かにするための取組も組み込んでいる。以下に概略と成果を述べていきたい。

#### (1) 1年目の取組（2年次）

##### ① たてわり活動の年間計画づくり

異年齢集団をたてわり班（1～6年生による13名程度の班）にしぼり、たてわり班での活動の内容やねらいを検討した。

##### ② 昨年度までのたてわり活動の見直し

これまでのたてわり活動を人間関係づくりの視点から見直し、ゲームの内容や活動の流れを工夫した。

##### ③ たてわり活動のふり返り方の工夫

活動のねらいにそって、低・中・高学年で具体的なめあてを定め、一人ひとりが活動への参加の仕方についてふり返るようにした。また、たてわり活動後、各班でふり返りの時間を設け、よかったことや問題点を話し合うようにした。

#### (2) 2年目の取組（3年次）

##### ① たてわり活動の年間計画の修正

前年度つくった年間計画をもとに活動の内容やねらい、ふり返りの観点を修正した。

##### ② ふり返り方の検討

集会活動後5分程度班でのふり返りの時間を設け、めあては守れたか、困ったことはなかったかなどを話し合うようにした。また、その記録は「たてわり班ノート」へ残していくようにした。

### (3) 異年齢集団づくりの成果

温かい人間関係づくりに向け、年間を見通した、出会う（1学期）、深める（2学期）、まとめ・感謝する（3学期）活動を位置づけることができた。さらに、一人ひとりのふり返りの観点「①楽しく参加できたか、②協力してできたか、③自分から進んで参加できたか」を決め、それをもとに、主なたてわり活動ごとに低、中、高学年で具体的なめあてをもって活動に臨めるようになった。

たてわり班においては、旗づくり（出会う）で1年間の班のめあてを決め、そのめあてに添って、たてわり活動ごとに具体的なめあてを立てて取り組むようにした。そのため、年間を通して班のめあてを意識することができ、自分たちでよりよい班、よりよい関係をつくっていかこうとする姿勢が見られた。

- ・ たてわり活動の内容

○主な活動（旗づくり、1年生を迎える会、チャレンジ集会、6年生お別れ会）
○ミニ集会（1年生と6年生、2年生と5年生、3年生と4年生で行う）
○たてわり遊び（学期に1回昼休みに行う）
○たてわり掃除（1週間に2回行う）

- ・ たてわり活動例 1学期

活動名及び内容	活動のめあて	具体的なめあて（高学年）
旗づくり（出合い） ・自己紹介 ・班のめあての決定 ・旗づくり	・班の友達のことを知り、みんな協力して班の旗をつくることができる。	①楽しく旗づくりができたか。 ②班員のことを考えて活動することができたか。 ③自分の考えを伝えたり、意見がまとまるように話し合いを進めたりすることができたか。

### (5) 今後の課題

- 他の領域での取組との結びつき

集会活動を楽しむためには、マナーやルールが大切である。教室などで行われる「聴き合い分かり合う」実践を、たてわり活動に生かしていくことが必要である。そのため、教室で身につけさせたい内容とたてわり活動で指導すべき内容を整理し、効果的な指導のあり方を探っていきたい。

- ふり返りの方法について

まだ、たてわり班でのふり返りの仕方は慣れていない。異年齢集団の人間関係をつくっていくためにも、たてわり班ノートをより有効に活用し、自分が所属する班の高まりを自覚できるようにしていきたい。また、ふり返りがスムーズに進行できるようにしたり、話し合いのポイントが分かるようにもしていきたい。

#### 4 3年間を通しての取組の成果と課題

本事業に取り組むにあたり、私たちは人間関係づくりは、何か単一のエクササイズやアクティビティの結果として達成できるものとはとらえなかった。学校生活のすべてで担うものとして総合的に取り組んできたのである。

今年度、本校の不登校児童は1名、いじめとして報告したものは3件あった。本事業の直接的な目的に対しての成果は数字上は表現できない結果になったが、以下のような点からは成果を報告したい。

##### (1) 学習指導等の場において

授業実践報告にも述べたように、「聴き合うこと」「分かり合うこと」を重視した学習指導が見られるようになった。具体的には、発言の仕方や聴き方の技能を高めること、グループ活動のルールを徹底すること、場や発問を工夫し子どもたちが自然な姿でかかわり合えるようにすること、ふり返り活動を工夫し、みんなの思いや考えを共有する場を設定することなどを日常の学習指導場面に取り入れられるようになった。子どもたちの活動も活性化し、自分の思いや願いを表現できる子や友達の意見とのつながりをふまえて表現できる子も増えてきた。

また、各学年の終了時の理想の姿を想定し、それに至るための見通しを提案プログラムに表現することができた。

##### (2) 各種エクササイズ指導において

各種手法は個々に取り出して、その実践力を高めることができた。実践は各担任に委ねたが、道徳にA F P Yを取り入れた実践、学活にエンカウンター的な活動を取り入れた実践がなされた。

またエクササイズ等は、年間計画のある特定の場所に位置づく意味を考えて、提案プログラムに表現することで、より計画的な取組につながることができた。

##### (3) 提案プログラムの作成について

提案プログラムは、2年次までの各種手法、授業づくり、学級集団づくりなど研究・実践を重ねたものを、一つの統一したプログラムに表現したものである。聴き合い分かり合う関係をつくるための系統をふまえていること（これはQ-U等標準化された検査を参考に学級集団をより客観的にとらえ、その集団のどこをどのように支援していくことでよりよい方向に育てていくかという手順をふむことも関連しており、理論研究の一つの成果でもある。）、学級経営の柱と関連させていること、担任個々の個性を生かしたものであること等、まさに総合的な計画書・提案書になっている。これを全担任が作成した。

今後の課題として、以下の三点を挙げている。

一つは対立や競争、挫折や忍耐をも組み込んだ関係づくりのあり方である。「聴き合い」や「分かり合い」の研究の中では、温かな互恵的なかかわりに重点がかけられていた。しかし、「分かり合う」関係を築くことができるようになるためには、対立や競争も必要ではなかったかと考えるのである。競争や勝敗とどう向き合うか、勝った方の友達、負けた側の友達との関係をどう維持するかは、長い人生を見通した時に欠かせない内容である。



1年1組		人間関係づくり提案プログラム		男子〇〇名 女子〇〇名 担任 〇〇〇	
学級のめあて		<input type="checkbox"/> 明るいあいさつをし、「ありがとう」「ごめんなさい」が素直に言える子 <input type="checkbox"/> 最後までがんばる子 <input type="checkbox"/> 話をよく聴き、進んで自分の考えを表現できる子			
		教科学習等での関係づくり		学級活動、行事等での関係づくり	
4	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 はきはきあいさつ ・明るいあいさつをし合おう 生活 みんななかよし ・〇〇です、よろしくの自己紹介 音楽 うたでなかよし ・音楽に合わせて握手をしたり歩いたりしよう 体育 おにあそび ・みんなで楽しくおに遊びをしよう	友達のよいところを見つけよう	○ 学級の友達のよいところを見よう	学級びらき ・自己紹介をしよう ・明るいあいさつをしよう 朝の会（通年） ・健康観察リレーと朝の一言 本の読み聞かせ（通年） ・静かに聴こう なかよし下校 ・同じ方向の友達と安全に仲よく帰ろう 友達の名前言えるかな ・名前であいさつ（エクササイズ） 1年生を迎える会 ・縦割り班の人と仲よくなるよう 係活動開始（学期毎通年） ・学級のみんなのために力を合わせて仕事をしよう 春の遠足 ・ルールを守って仲よく遊んだりお弁当を食べたりしよう なかまづくりをしよう ・かもつれっしや、人数あつめ 木の中のリス（エクササイズ） 縦割り掃除開始 ・教えてもらいながら掃除をしよう お楽しみ会を開こう ・したいことを考えて、みんなで楽しい会にしよう
5	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 話したいなききたいな ・自分の好きなものを絵に描いて紹介しよう 生活 がっこうたんけん ・2年生や友達と探検をしよう ・探検して見つけたことを発表し、学校の秘密を聴き合おう 図工 みんななかよし ・個々の作品をみんなで貼り、周りに楽しい絵をみんなで描こう		○ 友達のよい行いを見つけよう	運動会に向けて ・共に励まし合いながら練習しよう なかよくなるよう（エクササイズ） ・いろいろな友達と仲よくなるよう 帰りの会 ・楽しかったことや友達にありがとう と言いたいことの発表 誕生日会（毎月） ・友だちの誕生を祝い、みんなで楽しい会にしよう 学習発表会 ・友達のがんばっているところを見つけてながら練習しよう いいところみつけ ・友達のよいところや「ありがとう」と言いたいことを手紙に書こう （エクササイズ） お楽しみ会を開こう ・したいことを考えてみんなで楽しい会にしよう なかまとともに動け ・友達を信頼して一緒に動こう （エクササイズ）
6	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 てがみをかこう ・色々な人に手紙を書こう きいてきいて ・昼休みにしたことを話そう		○ 友達のよい行いを見つけよう	スリッパをそろえよう ・トイレのスリッパをみんなでそろえよう マラソンをがんばろう ・めあてをもって走ろう わが班は〇〇である ・自分たちの班のよさをアピールしよう （エクササイズ） 6年生を送る会 ・6年生にどんなことをお世話になったかグループで考えよう うれしかった ・友だちがしてくれた嬉しかったこと 「ありがとう」を「ありがとうカード」に書いてプレゼントしよう（エクササイズ） お楽しみ会を開こう ・1年を振り返ってみんなにありがとうという気持ちが伝わる会にしよう
7	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 おおきなかぶ ・声に出して読み、友達の音読のよいところを聴き合おう ・グループで劇をしよう 音楽 じゃんけんやけんば ・歌に合わせて仲よく遊ぼう であそびましょう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
9	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 かぞえうた ・音読の工夫をし、友達の上手な読み方を見つけよう 生活 げんきにそだて ・グループで協力して生き物のお世話をしよう 音楽 歌ったり踊ったり ・音楽に合わせて仲よく踊ろう 体育 運動会の練習 ・力を合わせて練習しよう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
10	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 サラダでげんき ・グループで互いに聴き合いながら役割読みをしよう 算数 ながさくらべ ・協力して色々な長さを調べよう 体育 ドッジボール ・みんなが仲よくゲームできるようにルールを工夫しよう 生活 あきをみつけよう ・木の実や葉で友だちといっしょに作ろう、遊ぼう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
11	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	算数 0のたしざんと ひきざん ・グループで計算の仕方を教え合おう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
12	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	国語 じゃんけん ・グループでじゃんけんを考えてみんなに教えよう 算数 大きいかず ・わかりやすい数の数え方を考えよう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
1	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう	生活 ふゆがやってきた ・昔からのあそびをしらべてみんなで遊ぼう 国語 はるのゆきだるま ・役割読みを練習して会話文読みの名人になろう 算数 大きいかず ・お金の出し方を考えながら買い物ごっこをしよう 生活 おもいでがいっぱい ・心に残ったことやできるようになったことを絵文で発表しよう 音楽 こいぬのマーチ ・心一つにしてきれいな音で合奏しよう 生活 おもいでがいっぱい ・学級の成長を振り返り、友達にありがとうの気持ちを伝えよう ありがとう6年生 ・お世話になったことをメッセージ やプレゼントにして伝えよう 1年生がくるよ ・1年生のためにできることを考えてグループで取り組もう		○ 友達のよい行いを見つけよう	
2	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう			○ 友達のよい行いを見つけよう	
3	○ 思いや考えを出し合い聴き合おう			○ 友達のよい行いを見つけよう	
友達一人ひとりのよいところに気づき、だれにでも優しい言葉かけや穏やかな態度でかかわることができる子					

3年3組		人間関係づくり提案プログラム		男子〇〇名 女子〇〇名				
				担任 〇〇〇〇				
学級のめあて		○相手の気持ちを感じ、素直に「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子						
		○めあてに向かって、最後まで頑張り抜く子						
		○互いの考えを聞きあいながら、自分の学びを深める子						
4	教科学習等での関係づくり		学級活動、行事等での関係づくり					
5	自分の考えを持ち、分かるようにあらわす ↓ 小集団で思いを伝え合う ↓ 互いの考えを聞きあいながら、学びを深める	国 自分を紹介するスピーチをしよう ・自分のことを友達にもっと知ってもらえるスピーチをしよう	○見通しを持つよう ○相手の気持ちを考えながら活動に取り組もう	エクササイズ「自己紹介ゲーム」	お互いのことを知ろう 相手の気持ちを考えて行動しよう 力を合わせて取り組もう			
6		図 風パワーぜんかい ・自分で決めた賞を目指して、走りと見た目にこだわった車を作ろう		旗づくりと1年生をむかえる会 ・新しい縦割り班で、協力して旗を作ったり、会を楽しもう。				
7		総 発見！くまげの〇〇じまん ・学習の計画を立て、自分たちで学習を進めていこう ・調べた事を、分かりやすくまとめよう		縦割り掃除 ・自分の役割を知り、協力して縦割り掃除に取り組もう。				
9		社 スーパーマーケットではたらく人 ・グループではたらく人やお店の工夫を見つけよう。		エクササイズ フラフープリレー				
10		総 おすすめけんこうレシピを作ろう ・グループで健康に良いレシピをつくり、発表しよう。		夏休み作品展 ・他のクラスや学年の作品を見て、よい所を見つけ、自分の作品作りの参考にしよう。				
11		図 絵本がいっぱい ・グループで、1冊のしかけ絵本を作ろう		運動会 ・友だちの頑張りを認め心から応援したり応援してくれた友だちに感謝しよう。				
12		体 マットあそび ・あらすじを作ろう ・分担して仕上げよう		社会見学 ・グループでの素早い行動に協力し、調べ活動に取り組もう。				
1		友だちの動きから、体の動かし方のコツを見つけよう ・アドバイスをしあい、より良い動きを目指そう		エクササイズ マシュマロ 学習発表会・ふれあい祭り ・自分の役割を自覚し、協力して学年の発表に取り組もう。				
2		国 サーカスのライオン ・場面ごとの課題を作ろう		チャレンジ集会 ・お客さんが楽しめるようなお店を開く工夫をしよう。				
3		・考えた事を聞き合い、登場人物の気持ちを読み取ろう		校内マラソン大会 ・友だちと励ましあいながら練習に取り組み自分の記録を伸ばそう。				
		友だちと協力して活動に取り組んだり、進んで役割を選んで活動したりできる子						



学級のめあて

- 友達のよさを認め、友達の心を大切にできる子
- 友達の話をしっかり聴き、自分の考えを進んで表現できる子
- 自らを高めるために、目標を持ってチャレンジする子

授業での関係づくり		その他の場面での関係づくり	
4	思いや願いを出し合おう	音楽科で育む温かい人間関係づくり	自分と友達の良さや思いを大切にしよう
5	思いや願いを出し合おう	誇りに思える自分・仲間になろう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう
6	思いや願いを出し合おう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	目標に向かって挑戦し今までと違う自分・仲間を発見しよう
7	思いや願いを出し合おう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
9	互いの思いや願いをつなごう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
10	互いの思いや願いをつなごう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
11	互いの思いや願いをつなごう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
12	互いの思いや願いをつなごう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
1	互いの思いや願いをつなごう	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
2	学級全体	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう
3	学級全体	一人はみんなのために、みんなは一人のために考え行動しよう	仲間と心を合わせて6年生の思いを受けつこう

6年生の思いを受け継ぎ、最高学年への希望と自信を行動に表せる子  
素直に自分の思いを表現できる子、互いの良さを素直に認め合える仲間